ゆうREPORT
―レポート―
男女共同参画社会をめざす
2004.6.20 NO. 1

特集
共生の町北区をめざして
―異文化と出会う―

男女共同参画社会をめざす
ゆうレポート 1
平成16年6月20日発行
刊行物登録番号16・2・009
発行／東京都北区子ども家庭部男女共同参画推進課
〒114-8508 北区王子本町1-15-22
TEL・03（3908）9307 FAX・03（3908）6606

「スペースゆう」では、女性のための相談を行っています。

からだの相談を受け持っているのはわたしたちです。

女性特有のトラブルや悩み、
「他の医師の意見も聞きたい」……
そんな声におこたえします。
どうぞお気軽にご相談ください。

（相談日:毎月第3水曜日　午後6時から8時。）

産婦人科・内科

中野 由美子 Yumiko Nakano

女性の立場から見た、女性のための医療をめざし、平成12年、王子で開業しました。主な診療内容は不妊症、更年期障害、癌検診、妊婦健診等で、他、体外受精、腹腔鏡検査を行っています。

～6月

内科・産婦人科

松下 真理 Mari Matushita

診療に際して留意していることは一人一人のニーズに合った対応をすること。当院で完結しない場合は最新の情報でその方に適した医療機関を紹介しています。最前線で健康管理をするベース基地である「かかりつけ医」・「ホームドクター」、古い言い方で「町医者」であることをモットーにしています。

10～12月

産婦人科・臨床心理士

吉野 一枝 Kazue Yoshino

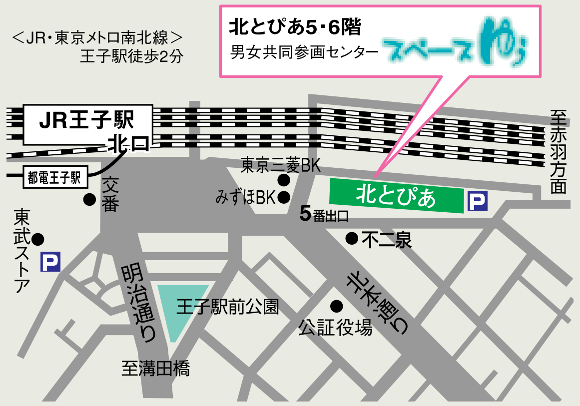
からだは自分のものです。そしてこころとからだはつながっています。主体的に自分の健康にかかわってほしい、そんな立場でアドバイスします。

2005年1～3月

GALLERY

協力／社団法人シャンティ国際ボランティア会
作／ラオス・モン族の人々

モン族とは、東南アジアのラオス、ベトナム、タイ、中国南部などの山岳地帯に住む少数民族です。山の自然に宿る精霊を信じ、焼畑で米やとうもろこしを作りながら自然と共に暮らす人々ですが、ラオスにおいては、ベトナム戦争と同時期に行われていた内戦に巻き込まれ、大勢がアメリカの支援する反共側の兵力に組み込まれて戦うことを強要されました。しかしラオスが社会主義となったため、1975年以降、多くの人々は難民となり隣国のタイに移っていったのです。刺繍壁掛けは、刺繍の上手なモンの女性たちが難民キャンプに暮らしながら、以前の山での平和な暮らしやその後の戦争や逃亡の様子などを刺繍に描いたものです。



編集後記

「アゼリア」から「ゆうレポート」へ。今号より、長年慣れ親しんでいただいた名称を変更しました。四月のオープン以来、多くのみなさんと一緒に新たな道を歩み始めている「スペースゆう」からの発信を、もっとたくさんの方々に届けたいという思いをこめたものです。

第一号の特集は、「共生の町北区をめざして」。異なる民族との共生と同じように、男女もお互いを理解し、その人権を尊重することからすべてが始まります。これからも、「ゆうレポート」は、男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな情報を発信し続けていきます。

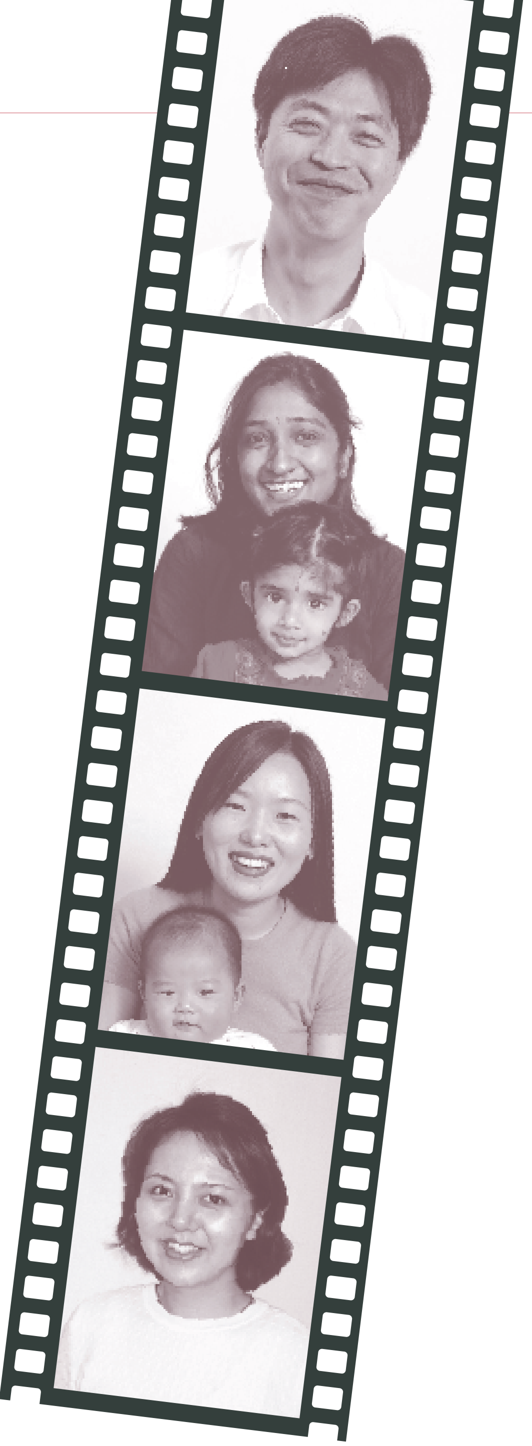
編集・企画／北区男女共同参画センター『ゆうレポート』編集グループ
E-mail:danjyo@kitacity.jp
印刷／東京書籍印刷株式会社 Printed in Japan

北区
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

特 SPECIAL 集

共生の町北区をめざして
―異文化と出会う―

世界が今ほど国境の垣根を低くしたことはありません。わが北区にも多くの外国人が暮らしており、その人口は14204人、全体の4・3パーセントにのぼります。北区全体の人口は減少していますが、外国人は増え続けています。民族と文化を異にする人々との身近な出会いと共生を、考えてみませんか。



外国から来た人々が北区で暮らしやすいように
ボランティアの運営によるいくつものグループがさまざまな活動を行っています。

日本語教室

日本語教室は火曜日から土曜日までの毎日、中央公園文化センターで開かれています。現在5つのグループが入門編から上級編まで、レベルも内容もさまざまに工夫を凝らして行っています。これらのグループは、平成4年に区が主催した日本語入門教室に参加した外国人や、北区の国際交流にご協力いただいているボランティアなどによって自主的にはじめられました。

土曜日は「日本語サロン」が開かれ、ヒット曲やテレビ番組、最近では時事問題を題材に楽しみながら言葉の勉強をしています。どの授業も生活に即して今すぐ役立つものばかりです。また日本の習慣や文化に親しめるよう、茶道、節分、お正月の催しなどの紹介もしており、お花見、浴衣を着ての花火大会、年一泊の温泉旅行などの楽しいイベントも行っています。教えるほうも教えられるほうも日本語だけでなく、生き方暮らし方まで伝えあっているように見えました。

つばさサークル

「ことばも生活習慣も分からずとても困っているフィリピン人母子がいる、なんとかできないでしょうか」保健師からの呼びかけをきっかけに草の根国際交流の会のボランティアがグループを立ち上げて10年。「つばさサークル」は国籍は違っても同じ町に住む母子が暮らしやすいように、子育ての悩みを話し合ったり、お互いの国の習慣を学びあう中で有意義なひとときを過ごしています。月に一度は保健センターの保健師も同席し、予防接種や罹りやすい病気などの相談にものっています。また自分の名前を日本語で書けるようになればと、サークルとは別に月3回読み書きの時間も設けています。

開設当初多かった日本人の男性と結婚したフィリピン人の女性は、ここで日本語や日本の習慣ばかりでなく、自信も得て、その多くは就労しているそうです。

この日、インドから来日して半年から1年半の4人の女性は「つばさがあるから日本人の友人ができた」「つばさがあっていろいろ教えてもらえるのでとても暮らしやすい」と笑顔で語ってくれました。出産を控えているバングラデシュから来た女性は「ここに支えてくれる人がいるし、近くにバングラデシュ人がいるので心強い」、近県から引っ越してきたばかりの韓国人は「庶民的なまち、はなやかさないけど暮らしやすい」、「小さい頃からいろいろな国籍の人と交流できる場があるのがありがたい」と話しています。

最近は日本人の若いおかあさんのボランティアもメンバーに加わり、子育て世代ならではの暮らしの情報もアドバイスしています。自分たちが外国人となかよくし、一緒にできることを考えながら問題の解決をしたいと出発したつばさサークル、10年経って参加者のニーズが多様化する中でその役割はますます大きくなっています。

民族学校との共生 ―国際化の原点―

北区上十条には、朝鮮民族の言語、文化を大事にする東京朝鮮中高級学校があります。お祭りの時などは、美しい民族衣装が町を行き交い、数年前までは、登下校時には女生徒のチマチョゴリが駅にあふれていました。

昭和初期、北区王子周辺には、朝鮮の人々が、工場労働者として多く居住し、年ごとに増加していました。彼らは、創氏改名によって日本名にされ、朝鮮語にかえて日本語を国語とされました。終戦後、直ちに、彼らは自民族の言葉と文字、歴史と文化を学ぶための学校を建設しました。北区上十条にある東京朝鮮中高級学校は、戦後直後に都内で初めて設立された朝鮮の人々のための中学･高校です。ここで多くの在日朝鮮の人々が、朝鮮語を学習し、民族の心と誇りを取り戻していきました。

それぞれの民族が、自分の民族の言葉を使い、文化を大事にし伝承することは国際法上の権利として認められています。1人1人の人格はそれぞれの言葉と文化によって形成されています。ですからこの権利は、各人のアイデンティティを大事にしなければならないという基本的人権に関わることなのです。

でも、日本の中でそれぞれの民族が自民族の文化を大事にしようとする民族教育はなかなか理解されませんでした。1960年頃には、朝鮮学校の生徒への暴行事件が相次ぎ、登下校時には十条駅や赤羽駅は警官が警備しなければならないほどでした。また、女生徒の制服であるチマチョゴリが切られるなど、暴行がより弱いものにむけられ、今では、制服がチマチョゴリからブレザーに選べるように換えられています。

そんな中でも少しずつ、共生を求める動きがあります。1994年には高校体育連盟が朝鮮中高級学校の参加を認め、JRも学割を認め、大学受験も各大学ごとに認められつつあります。都も1999年に初めて朝鮮初級学校との研修を持ち、北区の中でも、区立中学で、国際理解教育の1つとして民族舞踊を通じ学校間の交流をしたり、また、サッカー部の部活動などで、草の根からの交流を始めています。

国際化の時代、異文化を理解し、民族間の共生を求めることの重要性がますます増しています。他民族との共生は、それぞれの民族が自民族の言葉や文化を大事にすることを、自分の言葉と文化を大事にすることと同じように大事にすることなのではないでしょうか。北区の中の民族学校との共生、これは、わが区の国際化の原点だと思います。

北区アゼリアプラン推進区民会議会長・弁護士　大谷恭子

フェアトレード「買うことから始まる貧困の解消と環境の保護」

フェアトレードは「公正貿易」という意味を持っています。1940~60年代にかけて、アメリカやヨーロッパのNGO活動の中から盛んになってきました。通常の貿易よりも、作る人・働く人たちにより一層の公平さをもたらし、また、買う人たちには、地球環境にも優しい安全な品物を提供することを目的とした貿易です。

フェアトレードを通して、途上国と呼ばれる国々に住む貧困層の人々が、安全で衛生的な雇用の機会と場を得ることができ、また、自らの経済的自立のきっかけも得ることができるのです。

日本でも1980~90年代にかけて、国際協力活動を推進するNGOの中から、このフェアトレード活動を進める動きが出てきました。現地の人たちとともに彼らの貧困問題の解消を考えたとき、金銭援助だけでは現地の人々の自立しようとする意思を損うこともあります。また、環境に影響を及ぼすような援助の問題も指摘されています。

そのような援助からくる弊害を改善し、本当の意味での貧困解消を促す手段の一つがフェアトレードです。経済的自立を果たす機会を提供するために、自分の土地をもたない小作人や小規模農民には、彼らの作る農作物を適正な価格と公正な対価で取り引きできるようにし、職の機会をみつけるのが困難な貧困層の人たちには、自身の持つ技術を生かしながらその土地特有の自然素材を利用して作った製品の販売を促します。そうすることで、作る側・買う側という、対等な関係が成立するのです。利益を生み出すことが大前提の通常の貿易では、間に多くの中間業者が入り、実際にモノを生産する人たちの雇用や賃金は最低に抑えられ、彼らが手にする対価や報酬もほんのわずかになってしまいます。そのような貿易ではなく、作る人や働く人たちの顔が見え、モノに対して支払われたお金が、労働の対価としてきちんとその人たちにもどっていくような貿易がフェアトレードです。日本でも、多くのフェアトレード団体が存在するようになりました。

スペースゆうでのフェアトレード・今後の展開

スペースゆうにおけるフェアトレードの取り組みは、昨年女性センターで行った『地域の暮らし創造塾』から始まりました。参加者の中からフェアトレードをやりたいという声があがり、そこから誕生した団体のメンバーが、現在イベント開催時にフェアトレード製品を販売しています。

製品の生産国は、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、南アメリカとさまざまで、どの製品も、その製品が生まれた理由や背景など、独自のエピソードを持っています。十分に製品の開発が進められた立派な製品ばかりでなく、製作を開始したばかりの小さな団体による製品も扱っているため、見劣りするものもありますが、そのような製品に対しては、質やデザインの向上のために、消費者側からアドバイスしていきたいと思います。

区内の外国人を応援し世界の女性たちとつながりたいという思いがこめられている「コーナー　for　You」(6階)では、販売日以外でも製品を展示しています。並べられたモノを通して、その国の様子やそこに暮らす人々の状況、そして世界の今が見えてきます。また、「喫茶友」(5階)で常時購入していただける食品などは、現地の特産をいかして作られたものばかりです。

世界には、貧困に苦しむ人たちや、劣悪な状態で労働を強いられている子ども達がたくさんいます。スペースゆうでは、そのような人たちの自立を支援する区民の活動を、これからもサポートしていきます。

フェアトレードってこういうしくみです

コーヒー豆を例にみてみましょう

生産者（価格が安定しているので安心です。） → フェアトレード団体（毎年きちんと買います） → 焙煎業者 → 通信販売 フェアトレードショップ → 消費者

- ■ 最低価格の保証
  国際価格に関わらず話し合いで価格を決定
  通常より1～3割高く買い取るのが一般的
- ■ 代金の前払い
- ■ 長期安定契約
- ■ 有機栽培の奨励
- ■ 情報の提供

生産者が安心して生活できる、作り手にも買い手にも安心で、持続可能であること、それがフェアトレードです。

4月のオープニング記念イベント

4月17日に開催されたオープニング記念イベントではフェアトレードを身近に感じていただくためにインドのフェアトレードのビーズを使った「体験ビーズ教室」を行いました。

（協力:コンシャス·コンシューマー）

思い思いにビーズを選んで

5月は世界フェアトレード月間です

5月30日に「小さなものでつながる人々の暮らし」と題してピースウインズ·ジャパンの田中優子さんからモンゴルや東ティモールの生産者の様子、前SVAの渡辺有理子さんからは絵本『おおきなかぶ』を携えてよみきかせを行ったビルマカレン族難民キャンプでの経験を話していただきました。

参加者とともにカレン語で「うんとこしょ、どっこいしょ」

東ティモールのコーヒーを飲みながら

ショップ開店予定日

■毎月第3土曜日（プロジェクトUによるコンサート日）

■その他プラネタリウムホールでのイベントがある日

※くわしくはお問い合わせください　電話　03（3913）0161

＊＊＊ 今年で2度目を迎える ＊＊＊

「アジアの子供の夢舞台」

アジアの子供たちの交流を通して、日本とアジアの友好と平和を願いアジアの子供たちの夢の実現に協力することを目的に今年も開かれます。

日　時　9月23日（木）
北とぴあ　さくらホール
午後4時開演

主　催　アジアの子供の夢舞台
実行委員会

北区国際化推進ビジョンの概要

「北区国際化推進ビジョン」は北区におけるこれからの国際化推進のあり方、方向を定めた基本方針として、平成16年6月に策定されました。

〈基本目標〉

グローバル時代のまちづくり

〈具体化にあたっての視点〉

区民主体の国際化
区民が自主的·自発的に活動することを基本として、行政はコーディネーター的な役割を果たす

多様性を認め合う国際化
日本人区民と外国人区民が、ともに多様性を認め合うことのできる多文化共生の土壌を育み、推進する

子どもたちに対する国際化
次代を担う子どもたちに対する国際化への取り組みを行う

〈施策及び具体化の方向〉

地球市民を育む意識づくり
身近な問題から地球規模の課題まで、グローバルな視点で考え、地域から行動することのできる意識を醸成
①人権の尊重　②平和の推進　③国際理解の推進

国際交流・国際協力の推進
区民、区民活動団体、企業などと連携・協働して、国際交流・国際協力のあり方の見直しと一層の推進
①地域における草の根交流の推進　②区民主体の国際交流の推進
③北区らしい国際協力の推進

外国人にも暮らしやすい環境づくり
外国人もともに生活する区民として、安心して暮らせる環境づくりの推進と、地域社会における多様な場での参加や交流の促進
①外国人が生活しやすい環境の整備　②多文化共生のしくみづくり
③外国人区民の地域社会への参画の促進

「スペースゆう」

2004年度も、学ぶ・出会う・拓く

「女性センター」から「スペースゆう」へ。昨年多くの、そしてさまざまな参加者と講師の皆様のおかげで出会いと学びのプログラムを行うことができました。じっくりと聞く講義、参加者同士の経験がユーモラスに行き交う話し合い、真剣な問いかけ、体をいたわりながらお互いにほぐれて行く関係、音楽や美術を見聞きしながら考えるひととき、自分の抱えた難しい場面を誰かと話ながら理解していく時間。

どの講座も参加したみなさんに支えられ、豊かになりました。今年は新しい2講座が始まります。また秋からは「さんかく大学」を始め、昨年にひき続きさまざまなテーマ、講師、手法の講座を用意しています。自分につけたい力。聞きたい話したいテーマが見つかったら「スペースゆう」にお問い合わせください。

NEW 2004年 講座が始まります！

ビデオで発信！わたしの思い

つなぎ撮りと簡単パソコン編集：全6回

講師　山上千恵子（映像ディレクター）
瀬山　紀子（ビデオ塾）

	日時		場所	講座内容
7月	2（金）	10時00分～12時30分	スペースゆう	■自己紹介　撮りたいテーマ
	9（金）			■撮影の仕方（つなぎ撮り）　台本の作り方
	16（金）			■台本づくりと撮影
	23（金）			■撮影
	30（金）			■編集のノウハウと作業（とりこみ、タイトル、音入れ）
8月	6（金）			■編集作業、試写会

いきいき仕事力支援塾　また、やっぱり、これから仕事をしたいあなたのために

	日時		場所	テーマ	講師
6月	22（火）	10時00分～12時30分	スペースゆう	<無料公開講座>『女性の就業の現状と社会制度』	望月由佳（社会保険労務士）
	23（水）			<無料公開講座>『ワークシートで適職発見』	青木愛子（21世紀職業財団講師）
	25（金）			『仕事の棚卸と履歴書、職務経歴書の書き方』	小澤佳代子（有限会社モアフレンズ代表取締役）
	26（土）			<聴講可>『仕事をする不安をこえる力』	普光院亜紀（保育園を考える親の会代表　フリーライター）
	29（火）			『再就職の現場　～派遣、嘱託、非常勤～』	中野麻美（弁護士）
	30（水）			『インターネットによる求人検索と応募先の選び方』	小澤佳代子
7月	2（金）			『面接に成功するためのロールプレイ』	小澤佳代子
	3（土）	2時～4時30分		<聴講可>『再就職の現場』～NGO、NPO、個人事業	胤森なお子（フェアトレードカンパニー　広報ディレクター）
	6（火）	10時00分～12時30分		ハローワーク訪問	ハローワーク王子
	7（水）			ひとつ先のスキルワークショップ	足立恵理（ファシリテーター）
	9（金）			『就職活動に関する疑問・難問　Q&A』	小澤佳代子
	10（土）			『働くためのこころと人間関係のスキル　～次の一歩のため～』	山崎礼子（カウンセラー）

講座に関するお申し込み・お問い合わせ
北区男女共同参画センター「スペースゆう」
東京都北区王子1-11-1　北とぴあ（JR／東京メトロ 南北線 王子駅徒歩2分）　電話：03-3913-0161

FROM 情報コーナーから

こんな本が読みたい

<本は本で探す>　～ブックガイドを活用しよう～

「調べたいことがある」から「面白い本を探している」まで、ブックガイドはそれぞれのニーズに応えてくれます。本のなかにあるさまざまな出会いと発見を求めて、あなたもページをめくってみませんか。

『女性・婦人問題の本全情報　1999―2002』〔367.1〕
日外アソシエーツ編集・発行／2003

『フェミニズムの名著50』〔367.1〕
江原由美子・金井淑子編／平凡社／2002

『家族本40―歴史をたどることで危機の本質が見えてくる』〔367.3〕
山田昌弘編／平凡社／2001

『読む女　書く女―女系読書案内』〔910〕
川崎賢子著／白水社／2003

『こころの傷を読み解くための800冊の本』〔140〕
赤木かん子著／自由国民社／2001

『Woman's　EYE―[女性の本]の情報紙』〔雑誌棚〕
毎月1回1日発行／ミズ・クレヨンハウス

『ウィメンズブックス』〔雑誌棚〕
年4回／ウィメンズブックストア　ゆう

新着図書のご紹介

「赤毛のアン」の秘密　小倉千加子著　岩波書店、2004〔930オ〕

日本で根強い人気を保っている「赤毛のアン」。作者モンゴメリの生涯と創作過程を詳細に追跡し、アンという少女の心性を読み解きながら、日本人女性の結婚観・仕事観・幸福観の特異性を考察しています。

『おーい父親 PartⅡ 夫婦篇』〔367.3〕汐見稔幸著／大月書店／2003

『定年退職と女性―時代を切りひらいた10人の証言』〔366〕
女性労働問題研究会編／ドメス出版／2004

『共働き子育て入門』〔599〕普光院亜紀著／集英社／2003

『女人禁制にサヨナラを』〔366〕松村みち子著／行研／2003

『夫の言葉にグサリときたら読む本』〔367.3〕
パトリシア・エバンス著／PHP研究所／2004

『遠距離介護』〔369〕太田差惠子著／岩波書店／2003

『「ひとり」を支える女性たち』〔367.2〕
WWR研究会著／学文社／2004

『男を脱ぐ！』〔367.5〕蔦森樹著／全日出版／2003